■特集■スポーツの歌

「心の花」のスポーツの歌三六六首

2019.4.20.20.3

森部信次

新型コロナウイルスの影響で、選抜高校野球、プロ野球、Jリーグ、Bリーグが相次いで中止・延期、大相撲三月場所も無観客開催となった。あげくに東京オリンピックも延期である。この稿が載る六月には「緊急事態宣言」が解除され、病禍が終息に向かうことを祈っている。

スポーツは「不要不急」なのかと考えると、この一年の「心の花」に掲載されたスポーツの歌三六六首を見ていく。

・ハイパントあげ走りゆく吾の前青きジャー
・ハイパントあげ走りゆく吾の前青きジャー
・ジャージーの汗滲むボール横抱きに吾駆けぬけよ吾の男よ

ラグビーワールドカップ2019にあたって、佐佐木幸綱先生が朝日新聞のインタビューの際にあげた自薦歌である。

「心の花」にも、一月号の五十三首をはじめ七十二首のラグビーの歌が載った。たとえ「にわか」のバブルであろうと、五十

年来のラグビーファンは、うれしい。

・眼下まなもとに今日初めてのトライ生れ熱狂の渦
というはこれなる

・オフロードパスを出すのは福岡で松島が
行く敵陣へ行く

細溝作は豊田スタジアムのサモア戦、笠巻作はエコパスタジアムでのアイルランド

戦の観戦歌である。とりわけ優勝候補のアイルランドに歴史的勝利をあげた日本代表の目撃者となった笠巻さんが、羨ましい。

松島、福岡だけでなく、キャプテンのリーチ・マイケル、ジャッカルジャッカルの姫野、笑わぬ男稲垣が歌に詠まれた。彼らを生かすために泥臭くタツクルを続けた「トモさん」、

トムソンルークの献身を、ぼくは忘れない。
・日本人ではなく日本人か日本チームのラグビー選手

代表は、国籍ではなく各国の協会所属選手から選ばれる。ただし、代表になった者は他国代表になる資格を失う。つまり、外

国籍の代表選手は「日本」を選んできた人なのだ。これが理解され、うれしい。

反面、東京オリンピックの歌は一六首と盛り上がらなかった。

・五輪から復興といふ二文字をとつてほし
いとおもふふくしま

・予定ではオリンピックは不都合のすべてを隠し世紀の祭典

・ポプヘイズ遠藤幸吉へーシンク三宅義信
東洋の魔女

しかも、オリンピックに懐疑的な歌や、
1964年を回顧する歌が目立った。実

際、猛暑の中で開催する危うさ、トライアスロンやマラソン会場をめぐる不都合ばかりが話題となった一年だった。国民の間に

いつか醒めた気分が広がり、それが作品に反映したように思う。

・突然に膝折れ崩れるドネアかな舞ひを静かに勇士は終へる

熱い歌はあった。ボクシングは一六首。